

『蒙古襲来絵詞』第2巻 第5紙～第8紙

竹崎季長（1246 年生まれ）は肥後国（現在の九州熊本県）出身の武士であり、彼の従者と共に、同地域出身の強力な武士である菊池武房（1245-1285）とその部下たちが防御壁に座っている前を通り過ぎながら進軍しています。季長が壁を通るとき、侵略するモンゴル軍との差し迫った戦いで、彼の勇敢さを証言するよう武房に伝えています。モンゴルは 1274 年と 1281 年に日本へ侵攻しました。季長の従者の 1 人がボートフックを持っているのが見え、まもなく行われる海戦を予告しています。重要なキャラクターの名前は、各人の頭上に書かれており、季長の名前は赤いインクで書かれています。

この絵巻物は、モンゴルとの戦いにおける彼の勇気の歴史的記録として、未永が依頼した可能性があります。巻物は、特に戦士の鎧と馬の詳細な描写など、当時の侵略の描写として注目に値します。